

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年3月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201686		
法人名	有限会社ライフレビュー		
事業所名	まつもとデイ・グループホーム		
所在地 (電話番号)	静岡市葵区長沼2-11-20		(電話) 054-267-2288

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年11月5日		

【情報提供票より】平成19年10月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年6月3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定数計 9人	
職員数	10人	常勤 6人、非常勤 4人、常勤換算 4.7人	

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り 3階建ての3階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4)利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	齊藤医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3階建ての建物は、外観でやや施設的な印象を受けるが、ホームが設置されている3階に入ると暖かな家庭的な雰囲気が醸し出されている。開設して2年余りが経過し、利用者本位のサービス提供に向けて試行錯誤を重ね取り組んできた。また、自治会活動にも積極的に参加し、地域小・中学生の体験学習の受入れを行う等、地域に開かれたホームづくりを行っている。近隣住民とも顔なじみの関係となり、更なる取り組みも考えている。職員の離職等があったが、利用者の充実した生活を第一に考え、今後も地域根付いたホームづくりを行うことを考えているので、今後の取り組みにも期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を職員で確認し、計画的に改善を図ってきた。サービス提供に関わる書式の見直しやホーム便りの作成、介護計画の策定や見直し方法等を改善する等、具体的に検討し実現させている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 利用者本位のサービス提供に向けて、評価に対する意義を理解し、全ての職員で自己評価に取り組んだ。これまでの取り組みを振り返る機会として、話し合いの機会を設け、更なる取り組みに向けて検討した。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、訪問調査日以降に開催することになっている。(11月21日開催予定)運営推進会議の趣旨や意義は十分理解しているため、今後は定期的に開催するうえで、利用者のサービス向上に向けた検討が行われるように期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が何でも気軽に言える雰囲気づくりに努め、家族との連絡も密に行うように努めている。毎月ホーム便りを作成し、利用者の様子をそれぞれ伝えていることは、家族からも好評であり、家族アンケートにも記されている。家族からの意見や苦情はどのような些細な事柄でも真摯に受け止め、職員間で検討し、改善に繋げている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事に積極的に参加し、地域住民との交流を図ろうとしている。自治会回覧版でもホーム紹介を行い、地域に理解を深める取り組みを行っている。近隣住民とは顔なじみの関係となっているため、今後も交流を深め、地域住民が気軽に立ち寄れるような取り組みに期待したい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、自分らしく暮らすことができるようにとの理念を具体的に明示し、利用者一人ひとりに対するサービスを総合的に提供していこうとする独自の理念を創りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	複数の職員が離職したので、新たな職員も居て落ち着いていない状況もあるが、ホームの特性を踏まえて理念の実現に向けてどのように取り組むかを話し合い、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動に積極的に参加し、地域住民との交流も深めている。地域の小・中学生の体験学習を受け入れ、気軽に立ち寄られるホームづくりを開設以降行っている。職員にも近隣住民が多く、自治会回覧でもホーム紹介やホームを交流場所として提供する呼びかけを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を良く理解し、全ての職員で自己評価に取り組んでいる。これまでの取り組みを振り返り、具体的な改善に繋げようと考えている。定期的に評価を行うことの必要性を理解し、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	訪問調査日現在では開催されていないが、11月21日に開催することになっている。会議の開催意義を理解しており、利用者本位のサービス提供に繋げるための話し合いを行うことになっている。	○	会議の意義や趣旨は理解しているので、今後定期的な開催により利用者サービスの向上に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連絡を密に取り、現状の報告や運営への助言を得ている。	○	保険者である市(職員)に働きかけを行い、利用者サービスの向上に向けた事例やケース検討を定期的に行う機会を設けるように働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の生活の様子を伝えている他、毎月ホーム便りを作成し、金銭管理状況と併せて家族に送付している。ホーム便りは日常生活の様子その他、行事や外出時の写真や様子等も伝えられ、家族アンケートでも好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは日ごろから連絡を取り合える関係づくりとなっていて、意見や要望、不満や苦情等が気軽に言えるような関係づくりがされている。寄せられた意見等は真摯に受け止め、運営やサービス提供に反映させるように心掛けている。ホーム運営が利用者本位で行えるように考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や移動による利用者に与えるダメージを良く理解し、出来る限りそれが起こらないように努力している。最近では複数の職員が離職してしまったが、利用者に与える不安を考慮し、新たな信頼関係の構築に努めている。	○	職員の離職は様々な要因が考えられるが、今後もそれらを防ぐ取り組みに期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上を図るためには、職員研修の充実が必要であることを良く理解している。法人内での定期的な研修を行う他、外部研修にも積極的に職員を受講させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて地域の事業所への連絡を行ったり、会議で情報交換を行うが、定期的な交流や勉強会を行うにまでは至っていない。	○	地域の事業所職員と定期的な交流や勉強会を通じて、利用者の生活に広がりにもたれるような取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込みがあった場合には、利用希望者宅に訪問し、顔なじみの関係となつたうえで利用に繋げるように留意している。また、体験利用も薦めるとともに、実際のサービス提供にあたっては、利用者の様子を確認しながら一人ひとりに応じたサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は出来る限り利用者に寄り添い、様々な出来事を利用者と共有しようとしている。利用者を人生の先輩であるという認識をもち、利用者からも教えられるように考えて接し、共に喜び合えるような関係となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の生活歴を把握するとともに、日常生活の中の言動や仕草等からも利用者の意向や思いを把握するようにしている。把握した内容は記録し、全ての職員で共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとの担当制としているが、月に一度開催する職員カンファレンスの中で、利用者一人ひとりの気付いた点等を出し合い、具体的な計画策定にしている。また、策定後は経過観察し、計画内容が適しているかの確認を行っている。また、利用者及び家族の意向を十分反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には、具体的に見直し時期を明示し、見直し時期には適切に見直すようにしている。状況に変化があった場合には随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの多機能性を活かし、利用者や家族の希望や状況に応じて、柔軟に対応している。急な通院や外出等にも出来る限り同行や送迎を行っている。運営法人がデイサービスや鍼灸接骨院も経営しているため、利用者の機能維持と向上に向けたリハビリにも取り組み、利用者及び家族にも好評を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。また、ホーム協力医による往診も月2回あり、健康チェックや血液検査等を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応についてホームとして方針を定め、定期的に利用者及び家族等に意向を確認するようにしている。一人ひとりの利用者に対するターミナルケアのあり方を繰り返し話し合い、利用者の望む対応を行うようにしている。	○	利用者や家族によりターミナルケアに関する思いは異なると思われるが、今後も定期的な話し合いやその確認を継続していくことで、思いが反映されるような支援に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切に考え、言葉かけ等でもそれを損ねることが無いように留意して取り組んでいる。個人情報の取扱いについても、理解を深め適切に扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の概ねの流れはあるが、利用者一人ひとりの思いや希望、ペースを尊重し、それに沿った支援が行われるようにしている。充実した生活が送れるように、利用者へ寄り添いながらの支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設しているデイサービスの調理室で昼食は一括調理されるが、配膳や片付け等は、職員と利用者が一緒に行っている。利用者も調理や食事準備に関わり、職員も一緒に同じ物を食しながら食事の一時が楽しくなるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は、一日置きの入浴となっているが、入浴時間は利用者の希望等に合わせて柔軟に対応するようにしている。夜間の入浴希望や毎日の入浴希望などは無いとのことである。	○	入浴も利用者にとって寛げる一時であり、毎日の入浴についても検討しているので、今後の実現に期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味等を把握し、それが日常生活で継続して行えるように支援している。ホーム内の役割も利用者が自然に関わっており、利用者と職員が楽しそうに行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、積極的に外出出来るように支援している。また、季節に応じた外出や利用者誕生日の希望する場所への外出等も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3階建ての3階部分がホームとなっている(2階はショートステイ)となっているため、玄関は昼夜問わずオートロックとなっている。利用者の行動を制限することは一切無いが、建物の構造上は止むを得ないところでもある。	○	日中の施錠解除を検討しているので、実現に期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っているが、地域住民に協力を仰げる関係にまでは至っていない。	○	あらゆる事態を想定し、近隣住民の協力が仰げるような関係づくりや具体的な検討を行って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は一人ひとり記録している。栄養バランスにも留意し、一人ひとりの状況に合わせた食事形態で食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には、利用者の貼り絵等が掲示されるなど、季節感のある共用空間となるように工夫している。利用者が安心してゆったり、生活できるように、共有空間はゆとりのある広さとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、自らが作成したカレンダーが設置され、使い慣れた家具や調度品が持ち込まれ、好みの装飾も施され、個性ある居室づくりが行われている。また、それを職員が支援している。		